

単元名 【旧】ともだち ハウス(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) つくりたい家に合わせて材料の組み合わせ方を工夫することができる。
 (2) 空き箱などの材料を基に、「友達」に合った、家の形や色を思い付くことができる。
 友達と
 見せ合いながら、できた作品の楽しさや面白さを見つけることができる。
 (3) 「友達」の生活の様子を想像し、家をつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080214_001

【準備等】カッターナイフ、カッターマット、セロハンテープ、木工用接着剤、化学接着剤、クレヨン・パス、サインペン、はさみ、のり、身近材（小石、ペットボトルキャップ、貝殻、どんぐりなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 想像した「友達」からイメージを膨らませ、「友達」の家をつくる活動に興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の作品を見て気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター付きの家だね。 ・家の中には草のベットがあるよ。 ○小さな身近材で「友達」をつくる。 ★小さな「友達」が楽しく過ごせる家をつくろう <p>2～4 「友達」が楽しく過ごすことができる家を材料を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○想像してつくった小さな「友達」と対話しながら、どのような家がよいか考える。 ○箱を組み合わせて、「友達」の家をつくる。 ○家の形だけでなく、遊び場など「友達」が欲しいと思うものを想像を広げてつくったり楽しい家になるように工夫したりする。 ○出来上がった「友達」の家を持ち寄り、友達や自分の作品の面白さやよさについて話し合う。（言語活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.44, 45 ・身近材については、事前に保護者にも知らせておき、前もって集めることができるよう準備する。 ・自分の思いを大切にしながら活動が進められるように助言をしたり、材料を提案したりする。 ・接着することに困っている児童がいれば、積極的に支援する。 【評】作品を通して、「友達」に合った家の形や色を思い付く「発想や構想の能力」を評価する。 ・活動途中に友達の表現を交流し合えるような場を設けてもよい。 【評】作品を通して、つくりたい家に合わせて材料の組み合わせ方を工夫する「創造的な技能」を評価する。 ・友達の作品のよさや楽しさを味わわせる。 ・「友達」を使って家で遊びながら、鑑賞できるようにする。

【 備 考 】